

第6次松山市総合計画前期基本計画（案）に対する市民意見公募結果

1. 意見公募の概要

意見募集期間	平成25年1月16日（水）～平成25年2月14日（木）
意見の提出方法	持参、郵送、ファックス、電子メール
意見の募集方法	広報まつやま及び市ホームページへの掲載、市民閲覧コーナー・市役所企画政策課・各支所での閲覧又は配布
結果の公表方法	市ホームページへの掲載、市民閲覧コーナー・市役所企画政策課・各支所での閲覧又は配布

2. 意見結果の概要

応募総数	1名（意見総数 8件）
うち持参	0名

3. 回答者の属性

個人	1名
団体	0名

4. 意見への対応

意見総数 8件

- ：計画に反映したもの 4件
- ◎：今後（事業実施等）の検討に向け参考にしていくもの 1件
- ：意見と同様の趣旨、考え方等を記載しているもの 0件
- △：計画に反映できないもの 3件
- ：その他 0件

番号	該当分野	ご意見の内容	対応	ご意見に対する市の考え方
1-1	重点プロジェクト	（P9）主な取り組み 歩行者・自転車といった「遅い交通」のための都市基盤整備 →（提案）【歩行者・自転車といった「健康的な交通」のための都市基盤整備】にしては、どうか。「遅い」だと時代に遅れているとかという感じがある。スローライフのスローで「スローな交通」のためのでも良いかと思っただが、自転車のマナーの徹底が言われている時期でもあるので、健康に良い「健康的な交通」と考えた。	△	学識者等で構成される交通工学会などでは、以前から歩行者や自転車などの交通のことを「遅い交通」として表していますが、本市においてもこの言葉は、自転車などの交通を一言で言い表すことができ、誰もがイメージしやすい表現であると考えています。本市では、これまでも「まちづくりフォーラム」や「全国都市セミナー」などでこの言葉を使用していることから、「遅い交通」の表現については変更しないことといたします。 ただし、「遅い交通」について分かりやすくするため用語解説を追記いたします。 *「遅い交通」・・・高齢化社会における持続的な都市づくりに向け、公共交通への機能集積や車ではない歩行や自転車を中心とする交通のこと。
1-4	産業・交流	（P61）現状と課題 歩行者・自転車といった「遅い交通」への転換を促進し →（提案）【歩行者・自転車といった「健康的な交通」への転換を促進し】にしては、どうか。理由は、上記のとおり。		
1-8		（P88）水資源の保全 →（提案）【海水の淡水化、海水利用の防災システムの普及を検討します。】も加えては、どうか。		
	安全・安心	松山市の水問題への取り組みのホームページでも、新規水源確保のための方策比較で海水の淡水化は、黒瀬ダム未利用水からの松山分水に次ぐ評価をしているようであり、検討の文言を入れても良いのではないか。	△	（「水資源の開発」に関することは P49「安全・安心」分野の施策4「安定した水の供給」に記載しています。） 「水資源の開発」では、「節水をはじめ、雨水利用や漏水防止、水源かん養など、あらゆる取り組みを実施してもなお不足する水量について、新規水源の開発に取り組みます。」としており、「黒瀬ダムからの分水」や「海水淡水化」など、具体的な手段については「長期的水需給計画」など、個別計画に位置付けておりますことから、ご意見を基本計画に掲載することは考えていません。
	環境・都市	2012年に海水利用の防災システムを導入したニュースを見たので、水資源の保全の観点からその普及についても文言を入れても良いかと思う。	△	「海水利用の防災システム」については、昨年、西消防署にポンプ車やホース延長車などからなる「海水利用型消防水利システム」を配備しました。これを水資源保全のため普及してはどうかというご提案ですが、市内で消火活動に要する水量は日量に換算すると数立方メートル程度、一方、松山市民の一日あたりの使用水量は約14万立方メートルであり、水資源保全の観点からの効果は極めて少なく、基本計画に反映することは考えていません。また、このシステムについては、消防水利の寸断や枯渇で通常の消火活動が困難な大規模震災やコンビナート火災等への対応に限定されるものであり、費用対効果からみても全域に普及させていくことは困難だと考えています。

番号	該当分野	ご意見の内容	対応	ご意見に対する市の考え方
1-2	産業・交流	(P54) 持続可能な農林水産業の構築 生産者と消費者の相互理解により → (提案) 【生産者と消費者が相互理解できる場の拡大により】にしては、どうか。商店街などの場で地産地消をどんどん増やしていくことが大事であるから。	P54 ●	地産地消を進めることは必要であると認識しておりますことから、ご意見の趣旨を踏まえ次のとおり基本計画を修正いたします。 「生産者が消費者ニーズを的確に捉えるとともに、消費者が市内産農産物に対する理解を深め、 <u>生産者と消費者が相互理解できる機会の創出を図り、地産地消が進むような取り組みを推進します。</u> 」
1-3	産業・交流	(P54) 生産基盤と集落環境の整備 ため池への安全施設の設置などを支援し → (提案) 【ため池への安全施設の設置や地震による決壊に備えるハザードマップ作成などを支援し】にしてはどうか。大地震によって「ため池」が決壊すれば、陸の津波が生じるとされており、地域の自主防災組織と連携してハザードマップ作成などの支援も必要と考えるから。	P54 ●	ハザードマップ作成などの減災対策や防災対策などへの支援も必要であることから、ご意見の趣旨を踏まえ次のとおり基本計画を修正いたします。 「農業用施設の整備や農村集落環境整備のほか、 <u>ため池の決壊に備えた防災対策や減災対策に取り組むとともに安全施設の設置などを支援し、土地改良事業を推進します。</u> 」
1-5	教育・文化	(P75) 道後温泉本館について、その方向性を検討するとともに、保存修理に向けた準備を着実に進めます → (提案) 【道後温泉本館について、市民及び観光客の理解を得ながら、その方向性を検討するとともに、保存修理に向けた準備を着実に進めます】にしては、どうか。道後温泉本館は、松山の重要な都市ブランド力でもあり、市民及び観光客の理解を得ながら、大規模な保存修理の期間を乗り越えていかないといけないため。	P75 ●	道後温泉本館の保存修理については、有識者などで構成される「道後温泉活性化計画審議会」において、市民や観光客への影響も含め検討される予定であるため、ご意見を踏まえ、次のとおり基本計画を修正いたします。 「・・・道後温泉本館について、 <u>有識者などで構成する「道後温泉活性化計画審議会」の意見などを踏まえながら、その方向性を検討するとともに、保存修理に向けた準備を着実に進めます。</u> 」
1-6	環境・都市	(P79) 指標 上水道有収率 (%) → (提案) 指標 上水道有収率 (%) の説明が必要ではないか。何なのかが分からない。	P79 ●	ご意見を踏まえ、次のとおり用語解説を追加します。 「上水道有収率： <u>給水量のうち、料金収入等の対象となった水量の割合</u> 」とします。 なお、ご指摘のあった語句以外につきましてもわかりやすい表現に努めるとともに、専門用語等につきましては、必要に応じて用語解説を追加いたします。
1-7	環境・都市	(P87) ごみの減量・再使用・再生利用 → (提案) 【ごみの排出抑制・減量・再利用・再生利用・修理】にしては、どうか。これだけでは3R(リデュース、リユース、リサイクル)だけに留まる。3Rよりも上位のごみの排出抑制(リフューズ)を加えて、省エネの性能は高いか、リユースやリサイクルがしやすいか、本当に必要なものかを検討する環境教育を行う必要がある。さらに修理して使う(リペア)を加えて、長持ちさせる技術を学んでいくことも必要である。併せて5Rの意識を啓発していかないといけない。	◎	本市では、ごみの減量・再使用・再生利用について、市民の理解・協力を得られるよう様々な取り組みを進めています。5Rについては、最近使われ始めている考え方ですが、現段階では、3Rの更なる普及・啓発が必要であると考えています。ご意見のごみの排出抑制につながる行動や物を大切に、長持ちさせる技術を学ぶことは大切であるであると認識していますので、ご意見につきましては、今後、環境教育を進めるにあたっての参考とさせていただきます。

【所管課】

松山市総合政策部企画政策課

Tel : 089-948-6341

Fax : 089-934-1804

Email : sougoukeikaku@city.matsuyama.ehime.jp